**「地球に優しい商品」って何？**

仙台城南高等学校特進科１年　八角拓耶　角川航成　平根秀康

**Ⅰ．はじめに**

新学習指導要領「地理総合」の重要な核となるESDについて、ワークショップを通して自らが問題意識を持ち、主体的に問題解決の糸口を見いだした経緯を発表したいと思います。具体的には、グローバル教育では主流の「ものランゲージ」「フォトランゲージ」「ダイヤモンドランキング」という手法を使い、グループワークの中で見えてきた様々な問題の解決を探ります。また、具体的な将来のアクションプランをイメージするだけではなく、実際に本校の文化祭で企画した「高校生でもできる国際貢献」についても発表します。

**Ⅱ．研究目的及び内容**

この研究は、アイスクリーム、ポテトチップス、カップラーメンなどの原料になっているパーム油を通して、生産国で起こっている問題を知り、その問題の構造を整理し、さらに私たちの消費生活とのつながりを理解し、何ができるかを考えることをねらいとしています。

パーム油は、主にマレーシアやインドネシアでプランテーションという形で作られており、日本では主として食用に使われています。また、パーム油は天然の植物油脂なので、日本では「地球に優しい」というイメージのもと、洗剤や石鹸にも使われています。しかし、パーム油は、本当に「地球に優しい」のでしょうか？

生産国においては、非常に多くの問題が起こっています。マレーシアのボルネオ島サラワク州では、森林の伐採による熱帯雨林の減少や、先住民族の生活環境の破壊が深刻になっています。また、マレー半島においては、子どもを含めた労働者が何世代にもわたるプランテーションでの生活が強いられています。もちろんこの問題は、パーム油消費を止めることで改善されるような単純なものではありません。歴史的、文化的、構造的な問題が複雑に絡み合っています。

本研究は、「パーム油」に焦点を当て、その栽培条件について地理的なアプローチから自然的環境を俯瞰し、プランテーション労働から見える歴史的背景や、地球温暖化・先住民との衝突・児童労働等の問題点を整理し、因果関係についても明らかにすることで、それらの問題をシンパシーではなくエンパシーとして自分のことのように受け止めることの重要性を感じました。そして、自分たちに出来ることは何かを考え、多くの人たちにこの現状を知ってもらうことが重要だと考えました。そのために始めた活動として、実際に文化祭で展示したポスターをもとに発表したいと思います。

**Ⅲ．まとめ**

解決方法はまだ見つかっていません。しかしながら、パーム油生産国の問題を知ること、そして私たちの消費生活を振り返ることが、解決の糸口になるかもしれません。

この研究が、生産国の人々や環境に思いを馳せ、本当に「地球に優しい」商品とはどういうことなのか、を考えるきっかけの一助になることを願っています。